

平成 27 年度 自閉症講座基礎コース（登別会場）

こんにちは、ゆいBブロックの高野と申します。

今回は私が参加した平成 27 年度自閉症講座基礎コース（登別会場）に関する報告をさせて頂きたいと思います。

本講座での目的は、自閉症（児・者）の日々の支援に必要な基礎情報やアプローチ方法を学習し、支援技術の向上を図ることとされていきました。対象受講者は学校・幼稚園・保育園・福祉施設等において自閉症の方への支援に関わっている方となっていました。

日程ですが、全 4 日間、講座回数 7 回の実施となっていました。第 4 回 11 月 7 日（土）「実践発表」では、実際に受講者が講座を受けて学んだことを活かした実践発表となっていました。

回数	月日	時間	内容
第 1 回	6 月 27 日（土曜）	10:30~15:30 (昼休み 1 時間含)	講座 1 自閉症の特性と評価
			講座 2 構造化の紹介
第 2 回	8 月 1 日（土曜）		講座 3 課題分析
第 3 回	9 月 12 日（土曜）		講座 4 コミュニケーション
			講座 5 社会性の支援
第 4 回	11 月 7 日（土曜）		講座 6 行動マネジメント
			講座 7 実践発表 ※受講者

全部紹介してしまうと長くなってしまいますので、講座の中で印象深かった項目 2 つを紹介させていただきます。

◎1 つ目は、自閉症への理解を深めるための講座 1「**自閉症の特性と評価**」での自閉症の特性理解です。

この項目は私たち支援者の中では知っていて当たり前のような項目ですが、だからこそ常に理解し、学んでいかなければならないと感じました。講座内では特性理解として脳の仕組みが違うこと、見えない障がいであることが説明されていました。脳の仕組みが違うため、その違いに合わせた教育や支援が必要であること、違っていることを誇れる教育、支援の必要性が話されていました。私たちが支援を行う際に目で見てわかる支援を組み立てるのはそういった脳の仕組みの違いをもとに配慮しているためです。

◎2 つ目は講座 4「**コミュニケーション**」での自閉症のコミュニケーションの項目です。

自閉症スペクトラムの方にとって最も困難な領域の一つとされ、障がい特性としての苦手さ、脳の機能の違いとしての苦手さが見られます。その苦手さは行動と情報の処理の困難性、1 対 1 思考（複数の事柄の関連性・因果関係に気付けないこと）であることが挙げられます。またコミュニケーションという行動そのものに気付いていない方もいます。

コミュニケーションとは「人と人との間で目に見えない意思が交換されること」と話されていました。

この目に見えない意思の伝え方が分からないため、伝える一つの方法として不適応行動として伝えてくることもあります。

目で見えないものならば、目で見えるものにするすることで、少しわかりやすく、伝えやすくなります。コミュニケーションカードなど目で見える形にすることで、見えない意思を伝える手段となります。

どの領域の支援においても目で見てわかることが自閉症の方への支援に必要であることが今回の講座で再確認できました。

※今回の講座は TEACCH®自閉症プログラムにおける「構造化」等の支援方法を学ぶ、公式な研修プログラムではありません。あくまで発達障害者支援センターあおいそらがこれまでに TEACCH 等の優れた実践を参考に学び、取り組んだ実践の中から役に立ちそうな情報を紹介する内容となっています。



全講座を受けた受講者には修了証が手渡されました